

# 共に 「学び、思いやり、鍛え」 歩む

八代中学校「校長室だより」No.12

校訓

自主 誠実 工夫

令和6年12月10日(火)

## 保育所実習 ～ 体験に勝るものはない ～

3年生の家庭科の学習の中に、保育に関する単元があります。昨年度は、コロナ禍が明けたばかりの時期だったため、保育所実習は実施できませんでした。家庭科の教科担任である山村先生は、「今年度は、ぜひ実施したい」と思っていました。それは、文章や絵や動画で読んだり、見たりすることで感じるのと、同じことを実際に体験して、自分の肌で感じることは、違うということ、「体験に勝るものはない」ということを、知っておられるからです。そこで、実習を保内町にある保内保育所をお願いしたところ、快く引き受けていただき、3年1組が12月2日(月)、3年2組が12月3日(火)、保内保育所での保育所実習が実現しました。

実習の日までに家庭科の授業で、幼児の特徴や幼児との接し方などについて、資料を基に学習しました。また、実習の当日、子供たちへのプレゼントとして、松ぼっくりを使ったクリスマスツリーを工夫して作りました。



生徒の感想の一部を紹介します。

- 子供たちはずっと動いていて、元気でかわいかったです。外で遊ぶとき、サッカーがしたいとか、鬼ごっこをしたいとかなど、子供によってやりたいことが違うんだなと思いました。たまに、けんかになったりするなど、危ないシーンが少しあったけど、それを落ち着かせる保育士の先生のすごさが分かりました。
- 僕が保育所実習で印象に残ったことは、先生たちの対応力です。僕は5、6歳のおれんじ、ねーぶる組と遊びました。前半は計画通り、鬼ごっこをしました。後半は椅子取りゲームをやるつもりだったけど、園児たちがしっぽ取りをやりたいかのようなので、急遽外でしっぽ取りをすることになりました。その時に、しっぽの準備をしていなかったのでも、園児が自分でしっぽの代わりを見つけて使うことになりました。結果的に、園児たちも僕たちも楽しむことができました。僕は先生方が僕たちの時間も気にしながら、園児の意見を急遽取り入れるところが印象に残りました。
- 保内保育所は、思っていたよりも大きなところで、多くの園児と触れ合うことができました。主に、5～6歳児といましたが、とても活発で「氷鬼、しよう。」とよく誘われました。身長などの体の大きさも違うので、子供たちの目線になると、いつもと違う視界なので、また新たに子供たちについて知ることができた気がします。



保育所実習を通して、生徒たちは、保育士の先生方の対応のすごさに気付いたり、子供たちの目線になると子供たちの立場に立った対応の仕方があることに気付いたりすることができました。教室の中だけでは学べないことを学ぶことができ、3年生の一生の宝となったことでしょう。

(文責 河野 靖)